

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

アンケート実施期間:2024年12月
結果公表日:2025年3月27日

回答率

事業所職員: 4名回答、回答率 100%
保護者様: 13名回答、回答率 81%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・児童発達支援訓練室と隣り合っており、音が良く聞こえる環境のため、支援時間や課題の調整が必要だと感じている。
- ・児童発達支援と一体型という運営形態上、職員の配置に工夫が必要である。
(2025年度1月から多機能型の運営に変更したため、体制面は改善した。)

○業務改善

- ・第三者を招いた業務前ミーティングの機会が少ないこともあり、外部評価を満足に受けられていないと感じている。
- ・階層別研修など、職員育成のフォローアップが充実していた。

○適切な支援の提供

- ・1ヶ月毎に療育計画を設定し、週に1回通所することで5領域の課題に全て取り組めるような設定になっている。
- ・集団活動のプログラムは業務前ミーティングにて共有し、必要があれば職員全員で意見を出し合うことで支援の質の向上を図っている。

○関係機関や保護者との連携

- ・地域交流の部分で課題が残る。
- ・児童発達支援に通所していた児童以外の就学前児童が通所していた保育園・幼稚園等の共有事項が少なかった。一方で、就学後においては出来る範囲での情報共有が行えた。

○保護者への説明責任等

- ・HPに設置されているブログやSNSの更新が難しく、活用できなかった。
- ・以前から課題とされていた保護者交流の機会を設けるため、2025年2月に実施予定である。

○非常時等の対応

- ・月に1度安全計画に基づいた避難訓練を実施している。
- ・虐待防止研修や第三者を招いた事例検討などを行うことで児童と保護者が安心して過ごせる教室づくりに努めた。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

・環境・体制面については約8割の方に満足しているのご意見をいただきました。

○適切な支援の提供

・地域の子供や住民の方との交流の機会が少ないと感じている保護者のご意見があった。

○保護者への説明等

・子どもに合った計画がしっかり示され、支援を受けられているとの意見をいただきました。
・HPに設置されているブログやSNSでの情報開示が不足しているという保護者のご意見があった。
・12月に回答いただいた中から保護者会の開催がないこともご指摘をいただきました(2025年2月に実施予定)。

○非常時等の対応

・定期的な避難訓練の実施に対し約9割の方に満足度しているをご回答いただきました。
・事故防止マニュアルや感染症マニュアル等の周知に至れず、「わからない」との回答が3割程度あった。

○満足度

・いつも親子共に手厚く支援頂き、感謝ばかりですとの意見をいただきました。また、こどもは安心感をもって通所していますかとの設問に対し、全員の保護者から「はい」との回答をいただきました。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

・保護者会を年度末ではなく、夏や冬等の長期休暇に開催することで、ガイドラインアンケートへの反映を試みる。また、保護者様からのニーズを鑑みて、年に1回以上の開催を目指す。
・HPに設置されているブログの更新を再開することで、定期的な活動報告を行い、日々の支援を明確化し、安心感と満足度に繋げていく。

○改善できた点・まだ残る課題

・近隣の学校公開に定期的に参加することができた。
・教室の構造上、換気しづらいこともあり感染症が蔓延するリスクが考えられる。そのため、手洗い・うがいや消毒のみならず、換気も意識的に行っていきたい。
・児童ひとりひとりの支援について、毎日の業務前ミーティングにて話し合うことができたため質の高い支援を提供することができた。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・毎月配布しているニュースレターに活動内容と5領域を明示した療育計画を掲載していることから、保護者から固定化されていない支援について高い評価を受けることができた。
- ・また、個別支援計画に基づいた支援が提供されていると多くの保護者に感じていただいた。更新面談の際に実施している個別支援計画の評価説明および目標設定や、日々のフィードバック時における児童の様子共有などが評価につながったのではないかと考える。
- ・子どもや保護者と日常的に密なコミュニケーションを取りながら共通理解を育み、必要時には助言や関係機関との連携をご提案することで事業所の支援への満足度に繋げることができたと感じる。

○改善点

- ・事故防止や感染症対策等様々なマニュアルが策定されており、事務室にて保管されているが保護者への説明にまでは至っておらず、「どちらともいえない」「わからない」との回答を多くいただいた。そのため、各マニュアルの開示と内容説明を開始することで、周知に努めたい。
- ・家族支援プログラムに関しても「どちらともいえない」「わからない」との回答が多かった。個別支援計画の更新面談時に、家族支援等を随時提供していることを周知し、また家庭ごとに沿った内容の具体例を提案することで、保護者が気兼ねなく支援を利用できるように尽力する。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・長期休暇中の課外・調理活動や保護者会、親子での療育参加など子ども・保護者どちらにもニーズの高いイベントを定期的に開催することで、支援の幅を広げていきたい。
- ・新体制となり、児童発達支援との多機能型から放課後等デイサービスが分離したので、今まで以上に年齢に則した支援や教室内での連携を強めることで支援の充実・拡大を図る。
- ・地域交流の一環として、まずは公共施設を利用した課外活動を行うことで、地域の中の1つの施設であることを周知する。また、児童にもどこに、どのような施設があるのかを実際に足を運びながら学んでもらうことで緊急時・災害時の避難場所として認識してもらおう。

○1年間で取り組む具体策

- ・以前から要望されていた親子参加型の療育を企画しており、2月に実施予定である。普段から提供している支援を実際に体験していただく中で子どもひとりひとりに寄り添ったスモールステップの理解を促し、また子どもの頑張りを間近で見いただくことでより高い満足度を目指していく。
- ・長期休暇中の支援プログラムに、子ども・保護者ともにニーズの高い課外活動を積極的に取り入れることで安定した利用者数を確保する。また、教室内だけでは出来ない体験や学習ができるようなイベントを考案する。
- ・保護者の方の協力を得て、更に関係機関との連携を強化する。そのことで、家庭のみならず学校や習い事先などでの困りごとを一緒に解決できるような教室づくりを行っていく。

スマートキッズ